

- 問1 鎌倉時代から室町時代にかけて、農業の生産力を高めるために普及した技術や制度について述べた文として、最も適切なものはどれですか。当時の様子を描いた「松崎天神縁起絵巻」には、牛や馬が田を耕す様子が描かれていることを踏まえて答えなさい。 (2023年 秋田県公立入試 類似)
1. 千歯扱きなどの新しい農具が発明され、大規模な新田開発が全国各地で幕府の主導により行われた。
 2. 牛や馬などの家畜を耕作に利用するとともに、同じ田畑で一年に二種類の作物を育てる二毛作が普及した。
 3. 溜池や用水路の整備が進み、稲作の伝来とともに始まったとされる公地公民制がより強化された。
 4. 肥料として化学肥料が導入されたことで、一年に三回の収穫を可能にする三毛作が西日本一帯に広がった。
- 問2 室町時代の農村において、農民たちが「寄合（よりあい）」を開いて行った活動の内容として、最も適切なものはどれか。 (2019年 大阪府公立入試 類似)
1. 特定の有力農民がすべての土地を所有し、他の農民を小作人として働かせる計画を立てた。
 2. 朝廷から示された律令に基づき、戸籍を作成して班田収授の事務作業を行った。
 3. 村独自の掟を定め、共有地である入会地の管理や年貢のとりまとめについて話し合った。
 4. 幕府が派遣した守護大名に従い、周辺の地域へ軍事侵攻するための作戦を練った。
- 問3 足利義満が明と貿易を行うにあたり、明の皇帝に対して取った外交上の立場や形式について述べた文として、正しいものを選びなさい。 (2019年 大阪府公立入試 類似)
1. 「日本国王」の称号を受け、明の皇帝に貢ぎ物を届ける朝貢の形式をとった
 2. 聖徳太子の時代のように、中国の皇帝と距離を置いた独立独歩の立場を強調した
 3. 幕府の役人ではなく、有力な寺院の僧侶に全権を委任した民間貿易の形式をとった
 4. 「征夷大將軍」の称号のまま、明の皇帝と対等な立場での国交を求めた
- 問4 室町時代に栄えた芸能である「狂言」の特色について、当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものはどれか、選びなさい。 (2022年 徳島県公立入試 類似)
1. 禅宗の影響を受け、墨一色の濃淡で自然を表現し、武士の精神性を高める役割を果たした。
 2. 民衆の生活や感情を滑稽に表現し、笑いを通じて社会の様子を描き出す喜劇としての性格を持っていた。
 3. 和歌の上の句と下の句を複数の人々が次々に詠みつないでいくもので、武士や僧侶の交流の場となった。
 4. 置や障子、床の間などを備えた住宅様式の中で、のちの日本建築の原型となった。
- 問5 室町時代における経済制度の一つである「座」の仕組みについて、当時の社会背景を踏まえた説明として正しいものはどれですか。 (2016年 広島県公立入試 類似)
1. 織田信長が楽市・楽座を導入したことにより、それまで座が持っていた特権が全国でさらに強化された。
 2. 商人や手工業者が有力な寺社や公家に所属し、奉仕や納税を行うことで、他者の営業を排除する特権を得ていた。
 3. 外国との貿易を円滑に進めるために作られた公的な機関であり、銀の輸出を独占的に行っていた。
 4. 武士が商業を管理するために組織したもので、農村から都市への人口流出を防ぐことを目的としていた。
- 問6 室町時代に行われた明との貿易における、輸出入品と幕府の目的について説明した文章として、当時の経済状況を正しく反映しているものを選びなさい。 (2021年 広島県公立入試 類似)
1. 日本からは銀や米を大量に輸出し、明からは鉄砲や火薬などの武器を輸入することで、幕府の軍勢力を強化しようとした。
 2. 日本からは陶磁器や漆器を輸出し、明からは香料や象牙を輸入して、幕府がそれらを独占的に東南アジアへ再輸出する中継貿易を行った。
 3. 日本からは生糸や茶を輸出し、明からは綿織物やキリスト教の経典を輸入することで、新しい文化を国内に広めようとした。
 4. 日本からは銅や硫黄、刀剣などを輸出し、明からは当時の日本で通貨として流通した銅銭や、衣料原料の生糸などを輸入して幕府の財源とした。
- 問7 室町時代に花開いた文化のうち、絵入りの物語として民衆の間で広く親しまれた文学と、現在の和室の原型となった建築遺構の組み合わせとして正しいものはどれか。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)
1. 文学：方丈記、建築：金閣（鹿苑寺）
 2. 文学：平家物語、建築：東大寺南大門
 3. 文学：御伽草子、建築：東求堂同仁斎
 4. 文学：徒然草、建築：平等院鳳凰堂
- 問8 室町時代、農民たちが団結して「土一揆」を起こし、幕府や金融業者に対して「徳政」を要求した背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 熊本県公立入試 類似)
1. 幕府が徴収していた棟別銭や段銭などの税を、完全に廃止させるため
 2. 借金を帳消しにし、担保として預けた土地や品物を取り戻すため
 3. 土倉や酒屋が独占していた酒の製造販売権を、農民に開放させるため
 4. 荘園領主に納める年貢の量を、全国一律で半分に減らすため
- 問9 室町時代に行われた明との貿易では、正式な貿易船であることを証明するために「勘合（勘合符）」という合い札が使用されました。この勘合が導入された主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)
1. キリスト教の布教を許可された船であることを示すため
 2. 輸入品にかかる関税の金額を明の役人に通知するため
 3. 正式な貿易船と、倭寇と呼ばれる海賊を区別するため
 4. 日本国内の有力な大名が勝手に海外へ行くのを防ぐため
- 問10 室町幕府の統治組織に関する説明として、将軍の補佐役である「管領」が果たした役割や制度上の特徴を正しく述べたものはどれですか。 (2025年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 幕府の財政や裁判のみを専門に扱い、政治的な決定権は持たなかった。
 2. 将軍が幼少や病弱な場合にのみ、臨時に設置される最高職であった。
 3. 有力守護大名がその任に就き、中央の政務を統括することで将軍の権威を支えた。
 4. 鎌倉府の長である鎌倉公方を補佐し、関東地方の行政や軍事を担当した。
- 問11 室町時代の1485年、現在の京都府南部にあたる地域で、地元の武士（国人）や農民が結束して守護大名の軍勢を国外へ追い出した出来事があります。その後、住民たちが合議によって約8年間にわたり地域を治めたこの出来事を何といいますか。 (2019年 愛媛県公立入試 類似)
1. 正長の土一揆
 2. 島原・天草一揆
 3. 山城国一揆
 4. 加賀の一向一揆
- 問12 琉球の国王が中国の皇帝に対し、臣下としての礼をとって貢ぎ物を届けることで、国王としての地位や貿易の許可を認めてもらう国際的な関係を何と呼びますか。 (2018年 群馬県公立入試 類似)
1. 勘合貿易
 2. 朱印船貿易
 3. 日宋貿易
 4. 朝貢
- 問13 勘合貿易の内容について、日本が明（中国）から輸入した主な品物の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2021年 岩手県公立入試 類似)
1. 銀・漆器
 2. 銅銭・生糸
 3. 刀剣・硫黄
 4. 木綿・米

答え合わせ・解説

問1	答え 2 牛や馬などの家畜を耕作に利用するとともに、同じ田畑で一年に二種類の作物を育てる二毛作が普及した。	鎌倉時代には、牛や馬などの家畜を農耕に利用する技術が広まり、さらに表作に米、裏作に麦などを栽培する二毛作が西日本から普及しました。これにより農業の生産力が大幅に向上しました。「千歯扱き」や「大規模な新田開発」は主に江戸時代の特徴であるため、中世の技術としては不適切です。
問2	答え 3 村独自の掟を定め、共有地である入会地の管理や年貢のとりまとめについて話し合った。	室町時代に形成された「惣」と呼ばれる村の組織では、有力な農民たちが「寄合」に集まり、村の運営に関する重要な意思決定を行いました。ここでは、山林などの「入会地」の利用規則や、村の秩序を守るための罰則（惣掟）を定めたほか、領主への年貢を一括して納める仕組みを整えるなど、農民が主体となって村を運営する仕組みが確立されていました。
問3	答え 1 「日本国王」の称号を受け、明の皇帝に貢ぎ物を届ける朝貢の形式をとった	足利義満は経済的な実利を得ることを優先し、明を中心とした国際秩序に従う形をとりました。明の皇帝から「日本国王」として認められる（冊封を受ける）ことで、臣下として貢ぎ物を捧げる「朝貢（ちょうこう）」という形式で貿易が行われました。これにより、室町幕府は莫大な富を得ることになりました。
問4	答え 2 民衆の生活や感情を滑稽に表現し、笑いを通じて社会の様子を描き出す喜劇としての性格を持っていた。	狂言は能の幕間（合間）に演じられる演劇で、当時の人々が抱いていた本音や生活の知恵、社会の矛盾などを笑いに変えて表現しました。室町文化が、足利義満の時代の「北山文化」や義政の時代の「東山文化」を経て、貴族や武士の文化と民衆の文化が融合していった過程を象徴する芸能の一つです。
問5	答え 2 商人や手工業者が有力な寺社や公家に所属し、奉仕や納税を行うことで、他者の営業を排除する特権を得ていた。	座は、当時の有力な権力者である寺社や公家に属することで、自分たちの商売を保護してもらう仕組みでした。これにより、特定の地域や市場で特定の品物を独占的に売ることができ、新規参入者を防いで利益を確保しました。戦国時代になると、城下町の活性化を目指す大名たちが、この座の独占権を否定する「楽市・楽座」の政策をとるようになり、自由な取引が奨励されるようになります。
問6	答え 4 日本からは銅や硫黄、刀剣などを輸出し、明からは当時の日本で通貨として流通した銅銭や、衣料原料の生糸などを輸入して幕府の財源とした。	足利義満が推進した勘合貿易は、幕府にとって極めて収益性の高い事業でした。日本は国内で産出される銅や硫黄、また高い技術で作られた刀剣などを輸出しました。これに対し、明からは「永楽通宝」などの銅銭が大量に持ち込まれ、当時の日本の貨幣経済を支えることとなりました。また、高級な衣料の原料となる生糸や、文化的な価値の高い書画・陶磁器も輸入され、幕府の財政基盤の強化に大きく貢献しました。
問7	答え 3 文学：御伽草子、建築：東求堂同仁斎	室町時代には、文化が武士や民衆の間にも広まりを見せた。「一寸法師」などの絵入りの物語である御伽草子は、その代表例である。また、建築面では足利義政が建てた慈照寺（銀閣）にある東求堂同仁斎が、畳や障子、床の間、違い棚などを備えた書院造の代表的な遺構として知られている。東大寺南大門は鎌倉時代の建築、方丈記や徒然草は鎌倉時代の随筆であるため、時代の整合性が取れない。
問8	答え 2 借金を帳消しにし、担保として預けた土地や品物を取り戻すため	室町時代の土一揆は、凶作や流行病などによる生活苦から、借金に苦しむ農民たちが中心となって起こされました。彼らは借金の証文を破棄したり、金融業者から無理やり返還を勝ち取ったりする「私徳政」を行うこともあれば、幕府に対して公式に債務免除を命じる「徳政令」の発布を求めることもありました。これは当時の貨幣経済の浸透と、それに伴う農民の窮乏化が背景にあります。
問9	答え 3 正式な貿易船と、倭寇と呼ばれる海賊を区別するため	14世紀から15世紀にかけて、東アジアの沿岸地域では「倭寇」と呼ばれる海賊集団が活動し、略奪行為を行っていました。明はこれを取り締まるよう日本に求め、正式な使節（貿易船）と倭寇を厳別するために、互いの札を合わせることで本物と証明する「勘合」を導入しました。これにより、室町幕府が公認した船だけが安全に貿易を行うことができるようになりました。
問10	答え 3 有力守護大名がその任に就き、中央の政務を統括することで将軍の権威を支えた。	管領は常設の役職であり、将軍の下で幕政全般を指揮しました。これに対し、関東の統治を担ったのは鎌倉府であり、その長である鎌倉公方を補佐するのは「関東管領」という別の役職です。管領は、有力な守護大名たちを幕府の政治に参画させることで、組織の安定を図る重要な役割を担っていました。
問11	答え 3 山城国一揆	応仁の乱の最中に、戦いに明け暮れる守護大名の畠山氏の軍勢を退去させるために起こりました。武士と農民が協力して「三十六人衆」と呼ばれる代表者を選び、自分たちで裁判や税の管理を行う「自治」を実現した点が歴史的に大きな特徴です。
問12	答え 4 朝貢	琉球王国は大規模な独自の軍隊を持つ代わりに、中国（明や清）と「朝貢」と呼ばれる主従関係を結ぶことで、国際的な信用と安全、そして貿易の独占権を獲得しました。この関係は、単なる経済的なやり取りだけでなく、中国皇帝から「琉球国王」としてのお墨付きをもらうという政治的な意味合いが強く、琉球の国家としてのアイデンティティ形成に深く関わっています。
問13	答え 2 銅銭・生糸	勘合貿易において、日本は明から銅銭（永楽通宝など）を大量に輸入し、これが日本国内での貨幣経済の発展を支えました。また、高級衣料の原料となる生糸や、書画・香料なども輸入されました。一方、日本からの輸出分は刀剣や硫黄、銅などが中心でした。